

# 未来へつなぐ　みんなの思い

## 福祉のまちづくりプラン事例



平成28年3月  
福岡市社会福祉協議会

# もくじ

- 1 はじめに P 1
  - 2 具体的なプラン作成事例を見てみよう（3校区） P 2
  - 3 プランづくりに取り組みたい！と思ったら P 10
- \* 福岡市社会福祉協議会・各区社会福祉協議会の問い合わせ先一覧 P 15





## はじめに



「住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らしたい」というのは、みんなの共通の願いです。それを実現するために、地域では校区社会福祉協議会を中心に自治協議会や民生委員・児童委員など様々な団体・人々と協働で「福祉のまちづくり」に取り組んでいます。

「福祉のまちづくり」は自分の住むまちを見つめなおし、「どんなまちにしたいか」「そのために自分たちでできることは何か」を考え、話し合い、思いを共有することから始まります。まちづくりの主役はその地域に住む住民です。所属する団体や立場を越えた、同じ地域に住む住民同士による話し合いはまちづくりに欠かせない過程（プロセス）であり、その話し合いから生まれた工夫・アイデアは「福祉のまちづくり」実現への第一歩となります。

**「福祉のまちづくりプラン」はこの話し合いから活動に取り組んでいく過程（プロセス）を目】に見えるかたちにまとめたものです。**この冊子は、プランづくりを通して校区の目指す姿（目標）・方向性や、実現できたらいいなという思いを地域全体で共有する取り組みが広がっていくことを願い、実際の事例を参考に作成しました。この冊子を多くの方々にご活用いただき、地域の実情に合ったプランづくりの一助になれば幸いです。

今回、活動事例で紹介しているプランは、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、医療や介護、生活支援などのサービスが一体的に提供される「地域包括ケア」の実現に向けて、各区保健福祉センターが、地域で高齢者を支える仕組みづくりを進めるために、平成25・26年度に実施した「高齢者地域支援モデル事業」を通して行われた活動をもとに作成したものです。福祉のまちづくりは、高齢者だけでなく、子どもや障がい者など地域の実情に合った取り組みを進めていくことが大切です。

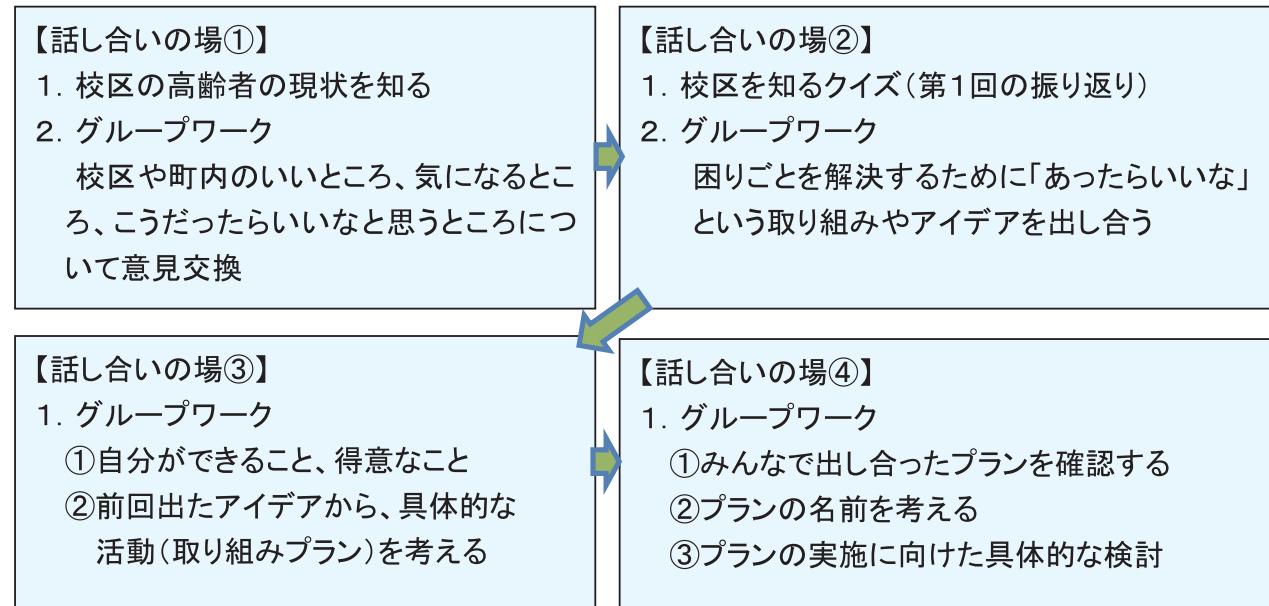
自分たちの住んでいる地域を「福祉のまち」として次の世代へ引き継ぐために話し合いを始め、「福祉のまちづくりプラン」をつくってみませんか。

# 具体的なプラン作成事例を見てみよう（3校区）

～事例の3校区では、どのような話し合いを重ね、そこで出された意見をどのようにプランとしてまとめ、取り組みにつなげていったのか、見てみましょう～

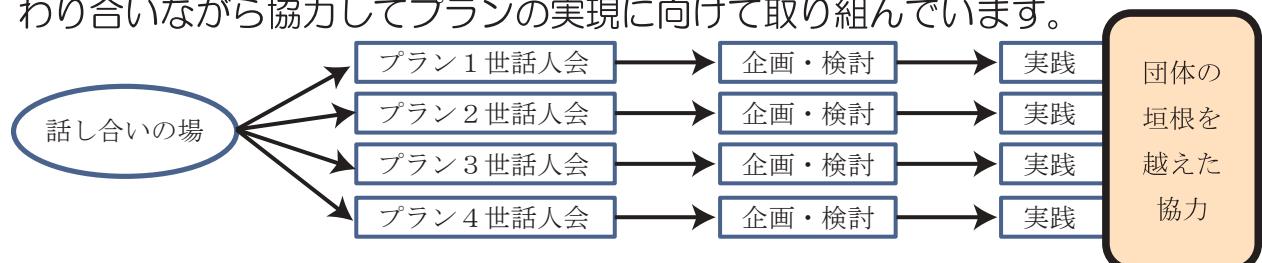
## 事例① 板付校区 『板付しあわせ夢プラン』

### ・話し合いの過程



### 話し合いの場から取り組みの企画・実践への流れ

- ・話し合いの場には自治会長や民生委員、校区社協や老人クラブ、その他各種団体のメンバーが参加しており、地域の福祉施設や介護事業所職員の参加もありました。
- ・4回目の会議の中で、柱となる4つの取り組み目標（プラン）が決まり、各参加者は「自分が最も取り組んでみたいと思うプラン」を選んでグループに分かれました。そこで集まったメンバーが中心となり、各プランの「世話人会」を組織し、実践に向けた具体的な話し合いを続けていくことになりました。
- ・各世話人会は「このプランに取り組んでみたい」と集まったメンバーであるため、団体の垣根を越えたメンバー構成になっており、施設・事業所の職員がメンバーに入っている世話人会もあります。
- ・世話人会に新たなメンバーを加えたり、実際に取り組みを実施する際に他の世話人会や各種団体のメンバーにも協力を呼びかけるなど、様々な立場の人が関わりながら協力してプランの実現に向けて取り組んでいます。



## 板付校区の概要

### ■ 人口の構成

	総人口	新世帯数	0~14歳	15~64歳	65歳以上	75歳以上
板付校区	15,086人	7,239世帯	2,221人 (14.7%)	10,181人 (70.5%)	2,684人 (17.8%)	1,283人 (8.5%)
博多区	206,622人	119,320世帯	24,488人 (11.7%)	147,341人 (70.6%)	36,793人 (17.0%)	16,678人 (8.0%)
福岡市	1,496,323人	734,056世帯	202,953人 (13.9%)	964,407人 (66.2%)	268,163人 (19.3%)	132,589人 (9.1%)

平成26年9月末現在の数値

### 第1回

板付校区を知ろう  
校区の「人にやさしいところ」と「気になるところ」について意見交換しました



### 第2回

取り組みアイデアを考えよう  
「あたらしいな」と思う取り組みや活動、場所などについて話し合いました



### 第3回

具体的な取り組みを考えよう  
具体的な取り組みについて企画書づくりを行いました



### 第4回

あしたの夢をカタチにしよう  
4つの取り組みプランの具体的な実践方法について話し合いました



## 板付しあわせ夢プラン 心のかよう町 板付をつくろう



板付校区では、「心のかよう町 板付をつくろう」をテーマに、平成26年11月～平成27年2月にかけて「あしたの夢を語ろう会」を開催しました。校区の様々な団体の方が参加し、自分たちの住む地域のことについて話し合い、これから何に取り組んでいかをみんなで考える良い機会となりました。

また、4回の話し合いの結果、今後校区全体で取り組んでいく「板付しあわせ夢プラン」がまとまりました。

### 【あしたの夢を語ろう会の開催日程】

第1回	平成26年 11月22日(土)	板付校区を知ろう
第2回	12月13日(土)	取り組みアイデアを考えよう
第3回	平成27年 1月24日(土)	具体的な取り組みを考えよう
第4回	2月28日(土)	あしたの夢をカタチにしよう～実現に向けて～

### ● 参加者の声より ●

- みなさんのいろいろな意見が聞けてよかったです。
- 良いところや気になるところなど、校区や町内についても認識できました。
- 何につけでも意見交換は大切！

板付校区自治協議会  
平成27年5月発行

### 夢プラン1 健康づくりに取り組もう

#### 【目的】

- 健康になろう、仲間を増やそう、地域を知ろう。
- 毎日の健康管理に努めよう。
- 子どもから高齢者まで集い、お互いの情報を共有しよう。



#### 1 板付歩こう会

みんなで歩くことで、気軽に相談できる仲間をつくり、元気になろう。

4/11に第1回を開催!  
毎月1回行う予定です。

#### 2 ラジオ体操

子どもから高齢者まで、みんなでラジオ体操をして心も体も健康に!  
定期的な見守りにもつなげよう。

目標

心のかよう町  
板付をつくろう

### 夢プラン3 おたすけっ隊をつくろう

#### 【目的】

- 困っている人のために、困りごとを解決しよう。
- 誰もが安心して、楽しく生活できるように助け合おう。

- ・ 電球の交換や草取り、ゴミ出し、買い物など、ちょっとしたことが「人でできない人が増えているのです。」
- ・ 地域みんなの力を合わせて、助け合おう!
- ・ 乳歯に「手伝って」といえる隣組をつくりたいこう!



### 夢プラン2 みんなのつどいの場をつくろう

#### 【目的】

- 誰もが集まりやすく、情報交換ができる交流の場をつくろう。
- 隣近所で顔見知りを増やし、世代間の交流を深めよう。
- お互いに見守り合える友達や仲間をつくろう。
- 閉じこもらずにみんなと仲良く、心と身体を健康にして、元気になろう。



#### ★つどいの場の名前アイデア★

- ・お茶しましょう！
- ・みんなでお茶を！
- ・カフェ ♥ とっとーよ
- ・地域のオアシスをつくろう！
- ・いつ来てもいつ帰ってもいい茶話会

### 夢プラン4 私にもできるケア・ケア

#### 【目的】

- 認知症になっても、介護が必要になってしまっても、本人も家族もみんなが安心して暮らせる地域をつくろう。
- 認知症の方が行方不明にならないために地域全体で見守ろう。
- 介護している家族だけで頑張らなくていいように、みんなで支え合おう。

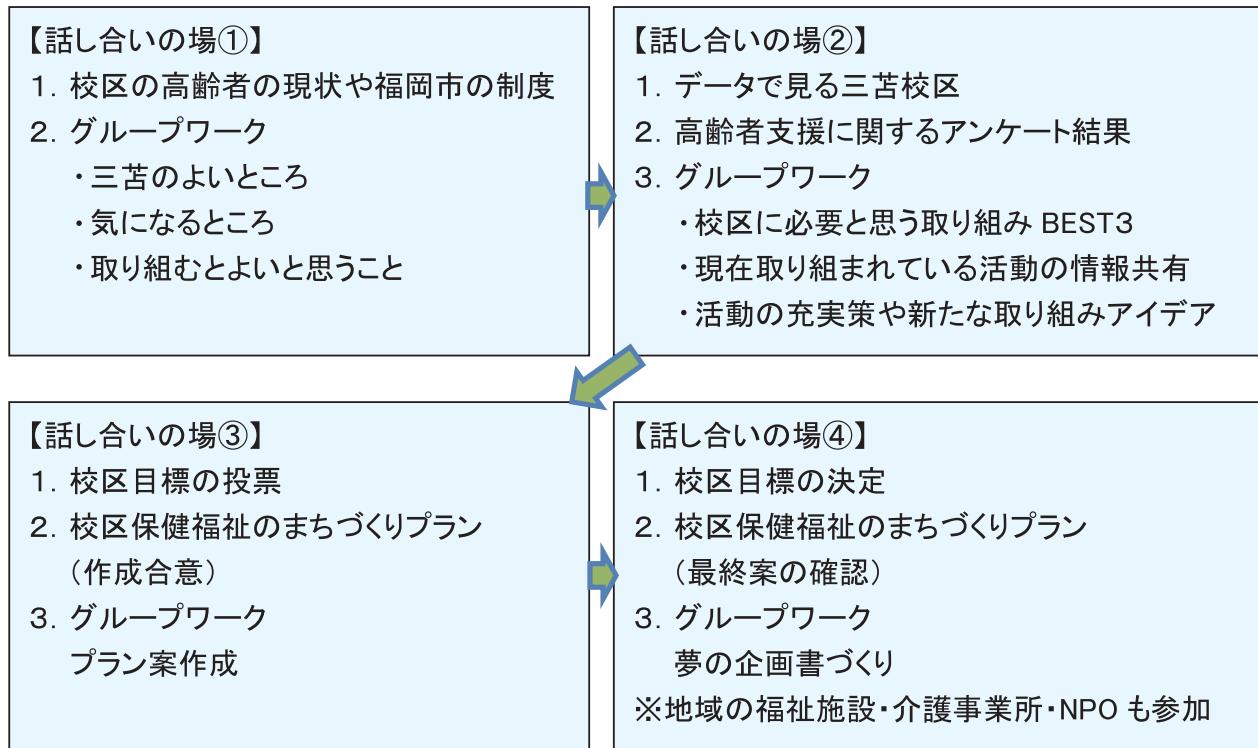
- ・ 認知症についてみんなに知ってもらい、地域全体で見守ることが大事。
- ・ 家族が認知症であることを周りの人に隠さずに暮らせる地域をつくりたい。

介護している方や介護経験者の方々に、どんなことがあったらいいかを聞くためのアンケートを実施予定です!



## 事例② 三苦校区『目配り 気配り 安心プラン』

### ・話し合いの過程



### 話し合いの場に参加した人の声(アンケートより抜粋)

#### 【校区住民】



- ・たくさんの意見があり、気づきがありました。どのプランもとても良いものだと思っています。少しずつ実現していかなければと思っています。
- ・改めて三苦に住んでよかったと実感しました。今回できあがったプランをきちんと運用できるよう協力していきたいと思います。
- ・初めて参加しました。このような会があって、地域が元気になればいいと思っています。微力ながら協力させていただきます。
- ・今後継続して地域の会議に参加していきたいと思いました。

#### 【事業所】



- ・私は施設の職員ですが、今回の地域の方の熱心な取り組みに感心いたしました。今後、私たちにもお手伝いさせていただければと思います。
- ・NPOとして参加させていただき、地域の現状、どのような未来像を住民の方が描いておられるのかが分かりました。私たちの強みをどのように活かせるかを考えるきっかけになりました。地域の方々との交流もできてよかったです。



## 事例③ 飯原校区 『いきいきプラン』

### ・話し合いの過程

#### 【話し合いの場①】

1. 地域包括ケアシステムの説明
2. 校区に関するクイズ
3. グループワーク
  - ・校区の高齢者の困りごとの情報共有  
(ご近所の高齢者や地域活動を通じて把握している高齢者の困りごと)

#### 【話し合いの場②】

1. グループワーク
  - ・①で共有した課題を解決するために「あったらいい取り組み」や「必要な取り組み」のアイデア出し
2. 校区目標のアイデア出し

#### 【話し合いの場③】

1. グループワーク
  - ・②で出した取り組みアイデアの中からグループで一つの取り組みを選び、取り組みプランを考える
2. 校区目標の投票

このあと実行委員会を三回開催し、グループワークの意見を取りまとめ、2025年に向けて実施する活動を決定しました。

### プラン作りに関わった方たちへのインタビュー

#### 【自治協の方】



- ・何度も話し合いを重ねたことで相互理解を図ることができた。今までの会長たちが望んでいたことがようやく形になってきたと感じている。
- ・各町同じように足並みを揃えることも必要だが、各町の色を出して活動できるといい。
- ・校区のメイン事業として推進をしていく必要があると強い気持ちになった。
- ・全てのプランを一気に達成するのではなく、地域のペースで作り上げていきたい。

#### 【校区社協の方】



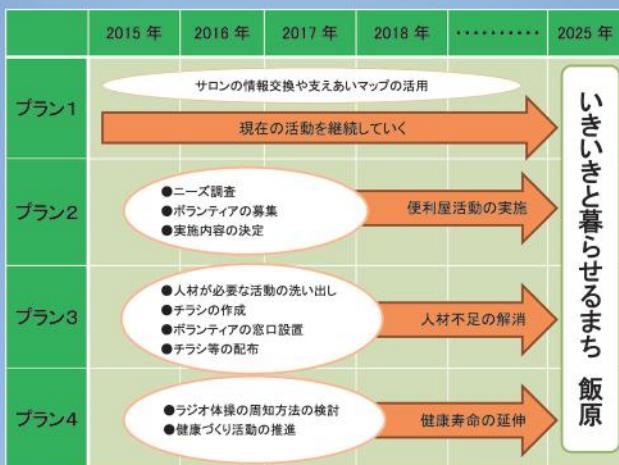
- ・地域でできるだけ多くの顔見知りを増やしていきたいと思った。
- ・ふれあいサロンやふれあいネットワークは、孤立防止や安否確認の機能が主だが、それ以上の機能を充実させていく必要性を痛感している。
- ・プランに記載した取り組みは、社協だけでなくすべての団体の活動にもつながっている。プラン実現に向けて、校区全体で動いていきたい。

#### 【公民館の方】



- ・校区の高齢化の実態と、これから校区としてどういう方向に進んでいったらよいのかよくわかった。また、みんなで話し合い、考えるきっかけをつくることができて本当に良かったと思っている。

## プラン実行のスケジュール



## 飯原校区の概要

### ■人口の構成

	総人口	総世帯数	平成27年9月末現在の数値		
			0～14歳	15～64歳	65歳以上
飯原校区	6,940人	2,995世帯	1,081人 (15.8%)	4,206人 (60.6%)	1,653人 (23.8%) 791人 (11.4%)
早良区	214,892人	96,648世帯	32,981人 (15.3%)	136,051人 (63.3%)	45,860人 (21.3%) 20,684人 (9.6%)
福岡市	1,468,418人	726,871世帯	204,346人 (13.8%)	983,574人 (65.0%)	300,498人 (20.5%) 137,680人 (9.4%)

## 飯原校区いきいきプラン いきいきと暮らせるまち 飯原



飯原校区では「飯原の高齢社会を考える」をテーマに、2025年に向けて、高齢などで手助けが必要な人を地域で支えるために地域でできることについて話し合う場を設けました。

校区の様々な団体の方が参加し、自分たちの住む地域のことについて話し合い、これから何に取り組んでいかべきかみんなで考える良い機会となりました。

また、3回の話し合いの結果、今後校区全体で取り組んでいく「飯原校区いきいきプラン」がまとまりました。飯原校区では、2025年に向けてこのプランを基に取り組みを進めます。

### 【「飯原の高齢社会を考える」の開催日程】

第1回	平成26年 8月31日(日)	高齢者の困りごとを 共有しよう
第2回	平成27年 1月30日(土)	取組のアイデアを 出そう
第3回	平成27年 3月14日(土)	具体的な取組を考 えよう

### ●参加者の声より

- 「住み慣れた地域で最期まで過ごす」ということを考えるいい機会になりました。
- できる人ができることを！みんなで助け合っていきたいと思いました。

### 飯原校区自治協議会

## いきいきプラン1 知り合いを増やして孤立を防ごう

### 校区・町内で取り組むこと

- いまの活動を継続し、横のつながりを持つようにしよう

ふれあいサロン、ふれあいネットワーク、地域カフェ、高齢者教室、友愛訪問、ダーツ、グラウンド・ゴルフ、バスハイク、あいさつ運動、介護者の集いなど

サロン同士の情報交換会や、  
ふれあいネットワークの  
「支えあいマップ」の活用  
(定期的な更新)をまずは  
進めます。

### 一人ひとりが取り組むこと

- まずは、活動に参加することから始めましょう  
仲間づくり、生きがいづくりにつながります！
- 積極的にコミュニケーションをとりましょう



## いきいきプラン2

### 日常生活のちょっとした お手伝いに取り組もう

#### 校区・町内で取り組むこと

- 電球交換などちょっとした困りごとを身近な  
地域で助け合えるよう、自治会単位で便利屋  
活動を始めよう

#### 一人ひとりが取り組むこと

- あなたの力を地域で活かしましょう
- 「助けて！」と気軽に声に出しましょう

## 目標

## いきいきと暮らせるまち

## 飯原

## いきいきプラン3

### 人材不足を解消しよう

#### 校区・町内で取り組むこと

- 公民館だよりにボランティア募集の記事を載せよう
- ボランティア募集のチラシを作って、配布しよう

#### 一人ひとりが取り組むこと

- あなたの力を地域で活かしましょう

## いきいきプラン4

### 健康寿命を延ばそう

#### 校区・町内で取り組むこと

- ラジオ体操を周知してたくさん的人に参加  
してもらおう

#### 一人ひとりが取り組むこと

- 健康への意識を高めましょう
- 校区や町内が実施する活動に参加しましょう
- 外出の機会をつくりましょう

## ～事例の3校区ではプランを実現する取り組みが始まります～

プランは「つくること」が目的ではありません。プランが実現するよう、できることから実践をはじめることが重要です。



### プランを実現する取り組み実践例

#### 活動事例① 健康づくりウォーキングと地域力カフェ(板付校区)



板付校区では、「健康づくりに取り組もう」という目標(夢プラン1)を実践する校区単位の取り組みとして、「板付歩こう会」というウォーキングの活動が始まりました。

ウォーキングは、健康づくりだけでなく、みんなで一緒に歩くことで、気軽に相談できる仲間をつくりたり、自分達の住んでいる地域のことを知ったりすることにもつながっています。夏の暑い時期を除いて毎月1回開催しており、平均して40名の方が参加されています。

また、「みんなのつどいの場をつくろう」という目標(夢プラン2)について、プラン作成後、どんなことができるかを地域で話し合った結果、校区単位の気軽な交流の場として「夢カフェ」という地域力カフェを始めることになりました。

カフェの開催日を検討する中で、「歩こう会には多くの人が参加しているから、同じ日に開催すればカフェにも参加しやすいのではないか」という意見があり、カフェと歩こう会は同じ日に開催しています。歩こう会に参加した人にとって、参加者同士の交流をさらに広げられる場になっており、カフェのみに参加している人にとっても、様々な交流や人ととのつながりが生まれるきっかけの場になっています。

その他にも、「私にもできるケア・ケア(認知症の方や家族が安心できる地域づくり)」という目標(夢プラン 4)についても、夢カフェの中で認知症の啓発活動を行う動きが出てきているなど、各プランが互いに連動しながら取り組みが展開されています。

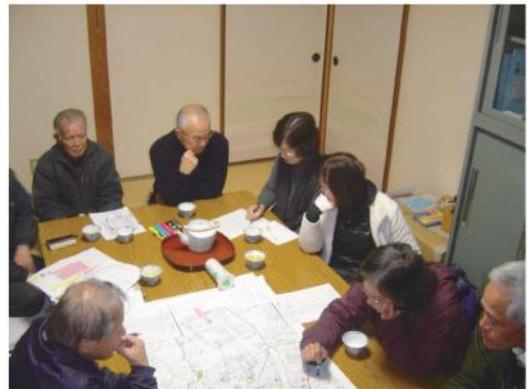


## 活動事例② ふれあいネットワーク班会議(三苦校区)

三苦校区では、プランの一つに「見守り活動を強化しよう」という目標を掲げています。その取り組みの一つとして、全町で活動が実施されているふれあいネットワークの班会議の充実を図りました。

具体的には、全町で見守り対象者・ボランティアを表示した「見守りマップ」を作成し、年3回の校区会議の前に各班で班会議を開催しています。班会議では見守りマップの点検・活動報告・課題検討を行う活動を実施しています。

校区会議では、班会議の報告や各班から出された課題の共有・解決に向けての話し合いが行われています。



## 活動事例③ 家族介護者の交流会(飯原校区)



飯原校区では、プランの一つに「知り合いを増やして孤立を防ごう」という目標を掲げています。その取り組みの一つとして、自宅で介護している人たちを対象にした「家族介護者の交流会」を、平成26年度から公民館で実施している「ふれあいカフェ」の場を利用して開催しました。

現在介護している方や経験者の方、校区社協、民生委員、いきいきセンター、区保健師など12名が参加し、日ごろの介護の悩みや愚痴をお互いに話したり、経験者の方の話を聞いたりしました。また、いきいきセンターから介護に役立つ情報提供もありました。介護者の方にとってリフレッシュできる機会にもなり、参加者からは、「自分の介護のことを話して少し気持ちが軽くなった」「他の方の体験の話を聞いて良かった」などの声が聞かれました。

飯原校区ではこの交流会がきっかけとなり、毎週水曜日開催している「ふれあいカフェ」の第1水曜日を、「介護者交流の日」として定期的な交流の場を設けることになりました。

プランはできたら終わりではなく、振り返り・見直しも必要です。プラン実現の進み具合や実践をとおして見えてきた新たな課題などについて、話し合うことが必要です。





# プランづくりに取り組みたい！と思ったら…



～「福祉のまちづくりプラン」づくりの一般的な手順～

## 自分たちの地域について「話し合う場」をもちましょう

### ◆話し合いの場って？

自分たちの地域（校区）について話し合い、目指す姿を共有し、活動に取り組んでいく過程を見るかたちにまとめたものが「福祉のまちづくりプラン」です。

“わいわい、がやがや、みんなが自分の思っていることを自由に話せる場” “みんなで校区の課題や目標、解決策（取り組みアイデア）について考える場” をもちましょう。

「福祉のまちづくりプラン」づくりは、校区社会福祉協議会や自治協議会、ふれあいネットワーク、自治会・町内会などが中心となって進められており、校区の状況によって様々です。

また話し合いの場は、福祉座談会や各種研修会、高齢者地域支援会議など様々です。

進め方は、校区の皆さんで話し合いながら決めていくことが大切です。



### ◆どんな人が参加するの？

校区によって参加者も異なりますが、例えば以下のような方々が考えられます。

#### ○様々な地域団体の人

校区社会福祉協議会、自治協議会、  
自治会・町内会、老人クラブ、  
民生委員・児童委員協議会、  
男女共同参画推進協議会 など

様々な立場の方が  
参加しています



#### ○いろいろな世代の人

高齢者の世代、働いている世代  
子育て中の世代、大学・高校生  
小中学生 など

施設の職員さんも  
参加しています



#### ○地域に関係のある人

社会福祉施設の人  
商店街の人  
企業の人 など

※無理なく参加の呼びかけができる範囲から始めましょう。  
※社会福祉施設や商店街など様々な立場の方々に参加しても  
らうことが、新たな地域活動につながることもあります。

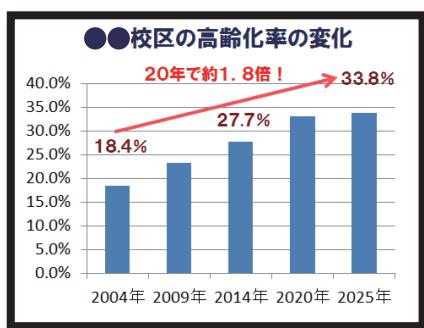
## ◆どんなことを話し合うの？

### ○校区を知ろう

- まずは自分たちの校区について情報を集め、地域の現状を見つめ直してみましょう。

#### 例1) 数字で見てみよう

- 校区や町内の人ロ・世帯数・高齢化率などを確認してみましょう。
- 福岡市や区の数値と比較してみたり、10年前、10年後と比較したりすると、今の校区の状況が分かりやすくなります。



#### 例2) 校区の活動を知ろう

- 自分たちの校区で現在取り組んでいる活動をあらためて確認しましょう。  
(ふれあいネットワーク、ふれあいサロン、子育てサロン、老人クラブ友愛訪問、町内単位の交流事業など)

### ○課題を考え共有しよう

- 地域で生活するうえでの困りごと、地域福祉活動に取り組むうえでの困りごとなど、地域に住んでいる自分たちが感じている課題を出し合い、共有しましょう。

#### 例1) ワークショップをやってみよう

- 参加者の考えや思いを共有する方法として有効です。
- 参加者一人ひとりが考え思いつくまま付箋に書き、類似のものをグループ化する方法を用いると、情報を整理し共有することができます。



## 例2) アンケートをやってみよう

- ・地域住民の考え方や思いを広く把握する方法として有効です。普段は地域活動への関わりが薄い人からも意見を聞くことができます。
- ・アンケート実施の際は「何のために（目的）」、「何を知りたいのか（項目）」、「誰に聞くのか（対象）」、「何人に聞くのか（規模）」、「いつ聞くのか（時期）」「どうやって聞くのか（方法）」などを検討する必要があります。

### (参考)①三苫校区でのアンケート

アンケート	
◆あなたの性別・年齢（あてはまるものに○をつけてください）	
性別	男・女
年齢	20代・30代・40代・50代 60代・70代・80代以上
◆ 高齢者を支えるために、町内・校区にこんな仕組み・活動があればいいな…と思うときに、○を付けてください。（複数回答可）	
1. 飲食所等での「みんないきわど」 (高齢者が定期的に集まって盆詠会やゲームなど楽しくながら交流する場) ※現在三苫校区にて1か月毎に「日のぼのサロン」が公民館で開催されています	
2. 誰でも集合所等で気軽に立ち寄って話ができる「地域カフェ」 (誰でも自由に参加でき、いき来ていい帰ってもよい地域住民の樂いの場) ※みんないきわどよりお細やかなフレンドルーム	
3. 定期的に集合所等にお弁当を持ち寄って一緒に食事をする会	
4. 定期的に集合所等で結婚式や誕生日・和洋など飾りを楽しむ会	
5. 運動会や高齢者の健康・病気に関する勉強会	
6. 高齢者の健康づくりに関する活動（例：ウォーキング、ラジオ体操など）	
7. 健康・介護について気軽に話をできる相談会	
8. 年代を超えた住民同士の交流イベント（高齢者と子どもとの交流など）	
9. ゴミ出しや電球の取り替え、買い物など近隣同士で助け合う活動	
10. 定期的に巡回講習を行う活動（消防や元気にしているか声を掛ける）	
11. 緊急時に家族や隣族等に連絡できるよう緊急連絡先を町内に届け出る	
12. 災害時に安否確認ができる体制づくり（誰か誰に声をかけるかを決めておく）	
13. 高齢者支援のための人材育成や研修制度	
14. その他（自由に書いてください）	



三苫校区では、町内会の評議員の方を対象にアンケートを実施しました。

「いくつになっても安心して暮らし続けられる地域」にするためには、どんな取り組みがあつたらいいと思うのかを選択式で回答してもらう方法でした。

### (参考)②箱崎校区でのアンケート



箱崎校区では、校区文化祭時に来場者を対象にしたアンケートを実施しました。

「こんなまちにしたい」、「こんな取り組みあるといいな」のアイデアの中で「いいな」と思うものにシールを貼る方法でした。

※地域の実情に合わせて、過度な負担がかからない方法を考えることが大事です。各区社会福祉協議会では、他校区で実施したアンケートなども参考に、実施のお手伝いをしますので、お気軽にご相談ください。

冊子の中でご紹介したワークショップやアンケートの実施方法は一例です。地域の実情に合った課題の集約・共有方法で進めることができます。

## ○校区の目指す姿（目標）を考え共有しよう

- ・「こんな校区にしたい」「こんな校区であってほしい」という目指す姿のアイデアを出し合いましょう。校区の皆さんのが共通した目標を持つことで、まちづくりが進めやすくなります。

※プランを作成した校区では、こんな目標を立てました

(平成 28 年 3 月現在)

校区	プラン名(愛称)	目標
三苦	目配り気配り安心プラン	みんなが安心して暮らせる町三苦
箱崎	よからうがプラン	声かけあえるあたたかいまち箱崎
席田	助け合いプラン	助け合える席田校区をつくろう
板付	板付夢プラン	心のかようまち板付をつくろう
那珂南	なかいいいプラン	なかなかいいね那珂南 ～おたがい今まで支え合い絆をつくろう～
板付北	ネットワーク推進プラン	ふれあいネットワークをさらに前進させよう
野多目	おもいやりプラン	見守り支え合うまち のため
城南	助け合いプラン	助け合い 笑顔の見える 城南校区
飯原	いきいきプラン	いきいきと暮らせるまち 飯原
野芥	野芥のこれからを考える	最期まで安心して暮らせる元気な野芥校区
玄洋	助け合いプラン	温もりのあるまち玄洋
城原	助けあいプラン	支え合って生き生き城原
西陵	福祉のまちづくりプラン	元気な高齢者を増やす

## ○具体的な取り組みを考えよう

- ・「目指す姿（目標）」に近づくために、「必要と思う活動」や「あったらいいなと思う活動」のアイデアを出し合いましょう。
- ・「できる」「できない」にかかわらず、まずはたくさんのアイデアを出すことが大切です。自由な発想から良いアイデアや新たな活動案が出てくることも少なくありません。  
※たくさん出されたアイデアを、「校区に必要な取り組み」「できそうな取り組み」という視点で見直すと、プランに掲げる具体的な取り組みの選定につながります。



## プランにまとめましょう

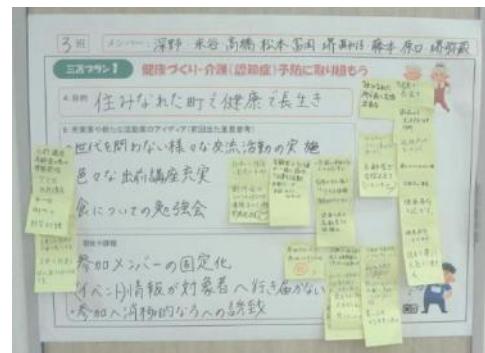
### ◆話し合った経過、目標、具体的な取り組みを「見える化」する

話し合った内容を、参加者だけで共有するのではなく、校区の人たちへ広く伝えることが目標の達成につながります。「見える化」は大切なポイントです。

#### ○まとめ方・プラン内容決定方法の例

##### 例1) 住民参加の話し合いの場でプラン内容をまとめる

三苦校区では福祉座談会でワークショップをしてプランをまとめました。



##### 例2) 地域代表者で話し合ってプラン内容をまとめる（ミニワークショップ）

箱崎校区では地域代表者（20名程度）でプランをまとめました。



### ◆プランの期間を決める

取り組みの大まかな目安として実現を目指す期間を決めることで、プランの進み具合の確認もしやすくなります。

進み具合によっては、プランの期間を延長するなどし、柔軟に対応していきましょう。



## ≪ 問い合わせ先一覧 ≫

名 称	所在地	電話	FAX
福岡市社会福祉協議会	中央区荒戸3-3-39 ふくふくプラザ内	720-5356	751-1524
東区社会福祉協議会	東区馬出5-40-11 箱崎前田6ビル 3階	643-8922	643-8923
博多区社会福祉協議会	博多区博多駅前2-19-24 博多区保健福祉センター 3階	436-3651	436-3652
中央区社会福祉協議会	中央区大名2-5-31 中央区役所 1階	737-6280	737-6285
南区社会福祉協議会	南区塩原3-25-1 南区役所別館 1階	554-1039	557-4068
城南区社会福祉協議会	城南区鳥飼5-2-25 城南保健所 1階	832-6427	832-6428
早良区社会福祉協議会	早良区百道1-1-1 UMIBE B.L.D 1階	832-7383	832-7382
西区社会福祉協議会	西区内浜1-7-1 北山興産ビル 1階	895-3110	895-3109

福岡市社会福祉協議会キャラクター  
ここっと





**編集・発行／社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会**

**〒810-0062**

**福岡市中央区荒戸 3-3-39 福岡市市民福祉プラザ内**

**電 話／092-720-5356**

**FAX／092-751-1524**